

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号	58
------	----

I 自己評価

（全日制課程）

1 学校教育目標	(1) 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけさせるとともに、創造性にあふれ明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	学習指導（教務）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒及び保護者等を対象とするアンケートから ・「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。」（肯定評価の割合：生徒93%） ・「本校の先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。」（肯定評価の割合：生徒79%）	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 主体的・対話的な学習態度を育てます。 (2) ICT機器を活用し、授業への興味・関心を高めます。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・管理職、企画委員会を核とし、他の分掌、学年会と連携した両キャンパス、全課程一体となった組織。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業公開と研究授業を通して教員同士が意見交流を行い、アクティブラーニングの視点に立った授業改善を進めます。 (2) 具体的な画像や動画を見せることで、学習内容をイメージしながら理解できるよう援助します。	(1) 保護者、生徒によるアンケートの結果。  (2) 生徒による授業評価の結果。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開と各教科による研究授業を実施し、授業の改善に取り組んだ。</li> <li>全教員がICT機器の操作を理解し、効果的な活用方法を研究した。</li> <li>外部企業と連携した遠隔授業を実施して、探究活動を推進した。</li> </ul>	①生徒が主体的に授業に参加できたか。  ②ICT機器の活用によって、授業内容の理解が深まったか。  ③多様な価値観に触れて、社会性を高めることができたか。	① A B C D ② A B C D ③ A B C D
11 成果・課題	○授業で生徒が交流し主体的に活動する場面が増えたことで、学習に対する意欲が高まった。 ○ICT機器の活用が加速度的に進んだことで、生徒は興味を惹きつけられ、より深い理解に到達することができた。 ▲勤勉な態度で学ぶ生徒がほとんどであるが、思考力・判断力がつくような授業展開とテスト問題の工夫が必要である。	
12 来年度に向けての改善方策案	・一人に一台整備されたタブレットを活用した参加型の授業を実践し、生徒の学習意欲を換気する。 ・新学習指導要領の本格実施に向けて、観点別評価の方法を、各教科で具体的に検討する。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月29日

- ・教育目標にある「生きる力」の育成は、何よりも大切な部分だと思います。色々なことに柔軟に対応できる力を身に付けてほしいと思います。
- ・生徒たちはICT機器を活用することで、学習に対する意欲が生まれてきたと思います。
- ・今の子どもたちはICT機器をうまく受け入れ、コロナ禍においても役に立つと思うので、どんどん取り入れていただければよいと思います。